

## そもそもプラスチックとは？ 生分解性とは！

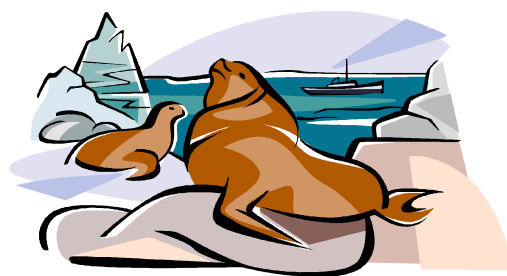
近年小さく分解されたマイクロプラスチックや、海などに廃棄されて生物に悪影響を与えていると、プラスチックに対する風当たりが非常に強くなっています。プラスチック類の循環促進を推進するための法律も施行されています。そもそも「プラスチック」とはどういったものなんでしょうか。本当は多様な種類があるのに、ひとつくりにしていませんか。

### プラスチックの種類

ポリエチレン・ポリプロピレン・ポリ塩化ビニル・ポリエチレンテレフタレート  
ポリウレタン・フェノール樹脂 などなど

プラスチックは所謂「合成樹脂」で、松脂などの天然樹脂とは異なり、石油などを原料として化学的に合成されたものです。様々な形に加工できて今や生活に欠かせないものとなっています。家の中を見回しただけでも、どれだけプラスチックが使われているか！そして土に埋めても熱湯かけても分解はしません。プラスチックとして再利用するか、燃やすか……と言う訳で、最近は「生分解性プラスチックだから安全です、SDGsです、環境にやさしいです」なんて言葉をよく聞くようになりました。

プラスチックだからと有料になったレジ袋にも、生分解性の文字が見られるようになりました。土に埋めると分解して最終的には水と二酸化炭素になるそうです。でも何年後？それに100%生分解性で作られていないと結局残ってしまいますよね。それに水の中でも分解するの？



いろいろ疑問が出てきたので調べたら

⇒現在市場に出回っている生分解性プラスチックの大半はポリ乳酸（PLA）というもので、これは生分解に50度以上の温度を必要とするため池や海洋環境中では分解されません。

他にも30度以上なら、というものもありましたが、水温30度の海ってどこ？？

日本では生分解性100%でなくても「生分解性プラスチック」と言えるらしいですが法律で「生分解可能」「堆肥化可能」などと商品にうたってはいけないとしている所もあるそうです。

環境問題の解答に正解はたぶんないのですが、話し合ってみてはいかがですか。

みなさんはどこまでなら許せて、どこからは許せないですか？